

廿八年	二五三、九七〇	六五、九五三、〇二
廿九年	三九〇、五一二	八四、九八二、七六
三十年	四六七、三二二	一三一、三二七、八六
三十一年	五四二、一五一	一三五、九三五、五六

其輸出額は年を追ふて増加し、卅一年度に至りては實に五十四萬斤以上に上り、其價格又十三萬五千圓以上の巨額に達せり。而して其輸出先の重なる所は、英國、獨逸、佛國、北米合衆國、支那香港等なり。輸出羽毛の種類は大別して陸鳥の羽毛と鷺類水禽の羽毛の二種とす。中鷺類の羽毛は、百斤に付四十圓の價あり、殊に其毛羽（カウ）の如きは、百斤に付百圓の價を有すと云ふ。陸鳥の羽は鷺類の比にはあらざれども、尙百斤十三四圓の價あり、現今輸出を營む商會の重なる者東京に野澤組あり、大坂に毛熊商會あり、尙上記の羽毛の種類の外に信天翁及其他海鳥の羽毛は、其産額詳ならざれども、昨年度にありては、小笠原及沖繩の兩島、黄尾島にて少くも十五萬斤を下らずと聞く。其價額に至りては、鷺類に劣れども、羽百斤に付三十圓内外、毛羽は七八十圓の價あり、故に其總額金四五萬圓以上に達す。是れ又有用なる本邦の一物産なりと云ふ可し。小笠原の鳥島は已に移住民ありて、凡そ十年以來其業を營み、絶海の遺利已に世にあらはる。沖繩縣下の鳥島に至りては、久しく絶海の裏に捨てられ世に出てず。然るに今や此無人島も開拓せらるゝに至れり。事業着手後日尙淺きも、古賀氏該島に道路を通し、波止場を修め、飲料水の「タンク」等を設

けて、沖繩縣人を移住せしめ、業又略其緒に就けり。事一私人に屬すと雖も、孤島開拓の業や蓋し又容易ならず、吾曹は國家の爲め此種の事業の多く經營せらるゝを喜ぶ者なり。些か予か踏査して、見聞せし所を記して、世に紹介すると爾。

此稿を終るに臨み、予が今回の探檢は一に我恩師理學博士箕作佳吉先生の懇篤なる勸誘と獎勵とに依りて起りたる者なれば、茲に深く感謝し、又此行に當りて少からざる便宜を與へられたる古賀辰四郎氏、三木本幸吉氏、沖繩縣知事男爵奈良原繁氏、元沖繩縣參事官岡田文次氏、及び其他厚遇を辱ふせる在沖繩の諸彦に向て鳴謝し、尙今回行を同ふし、常に其勞を共にせられたる八重山島司野村道安氏、沖繩縣師範學校教諭黒岩恒氏、并に永康丸船長佐藤和一郎氏等に向て深く感謝の意を表する所なり。

明治三十三年十一月十日

京都帝國大學大學院に於て記す

安達太郎山の噴火とラウス火山の鳴動 (承前)

理學士 金原信泰

それから此の羅臼の硫黄山ではドウデあつたかと云ふと此所は瀨石から見ると少し強いやうに見えます。此所では棚にある徳利とか茶碗とか云ふやうなものは鳴動の爲に動いたり又